

## 令和元年度長崎大学ワークスタイルイノベーション～働き方見直しプログラム～ キックオフオリエンテーション（附属中学校） 開催報告

【日 時】 令和元年 11 月 5 日（火） 15：20-16：50

【場 所】 長崎大学附属中学校 会議室 2 階

【参加者】 29 名（学長、松元学部長、藤本副学部長、附属中学校教諭 19 名、ダイバーシティ推進センター 3 名、外部コンサルタント 2 名、働き方見直し推進委員 2 名）

【プログラム】

- 15:20～15:25 ダイバーシティ推進センター長挨拶  
コンサルタント紹介
- 15:25～16:40 <第 1 部>なぜ働き方を見直す必要があるのか  
<第 2 部>どのように働き方を見直すのか  
<第 3 部>第 1 回カエル会議の開催
- 16:40～16:50 センター長挨拶  
振り返りカードの記入

### 1. 学長挨拶・コンサルタント紹介

最初に、河野学長より挨拶がありました。

「働き方改革関連法が施行され、特に病院や学校においてこの法律に従うのは困難な状況ですが、まず働き方の考え方を変えてほしい。そのため、この働き方見直しプログラムにて働き方を見直す必要性を理解し、その改善策を見出してほしい。時間をかける働き方は先生方にも子供にも良くない。働き方を見直し、より一層、子供たちから信頼されるようになってほしい。また、これが県内の教育現場のモデルとなり、先生方が県の教員に戻った際に先生方の実績となり、モデルを実践できるようになってほしい」と挨拶がありました。



### 2. <第 1 部>なぜ働き方を見直す必要があるのか

ここから、田川コンサルタントが進行（ファシリテーター）を務めました。

学校における働き方改革とは何かを他県の学校の例を交えながら説明がありました。次に働き方改革の必要性について、従属人口指数の推移から表される「人口ボーナス期・人口オーナス期」の解説がありました。



### 3. <第 2 部>どのように働き方を見直すのか

このセッションでは、二瓶コンサルタントが進行（ファシリテーター）を務めました。

まず、働き方改革の必要性を確認するために時間の使い方について現状を把握して、課題点を明らかにして、解決策を考える PDCA の説明がありました。生産性を上げるだけでなく新たな時間を生み出し活用するような姿や、組織の成功循環モデルについての説明がありました。

#### 4. <第3部>第1回カエル会議

二瓶コンサルタントから、働き方改革の全体像として、「理想的な姿（ありたい姿）」と「現実・現状」を見える化し、そのギャップを埋めていく取組としてカエル会議があると説明されました。

次に「理想的な姿（ありたい姿）」を見える化するにあたり、「働き方改革を通じてどのような学校にしたいか？」という質問に対し、以下のワークを行いました。

##### 【ステップ①】

2分で付箋に、皆が思う理想の学校の姿を数多く書き出す。

##### 【ステップ②】

A3用紙に付箋を貼り出した後、それらをグルーピングし、皆で共有する。

続いて、「ありたい姿」を実現するために、「障壁になっていることはなんですか？」という質問に対し、以下のワークを行いました。

2分で付箋に、要因である課題を数多く書き出す。

##### 【ステップ③】

優先順位を決めて、次回はこの課題についての課題策を考える。



#### 5. ダイバーシティ推進センター長挨拶

今日のワークを終え、吉田ダイバーシティ推進センター長から挨拶がありました。

自身もこれまで時間に制限のない働き方をしてきたこと、コンサルタント養成講座を受講して、改めてこの改革の必要性が実感したことなどを例に挙げ、始めは戸惑うかもしれないが、働き方改革に理解いただけることと確信している。附属中学校の働き方改革を推進してほしい旨の挨拶があった。



#### 6. 振り返りカードの記入

《振り返りカード（本日の定例会で学んだこと、印象に残ったこと）》

- 理想の学校、その実現の障壁となることを他の先生と共有できたことはよかった。「働き方」生産性、時間を意識する機会となった。
- 教師が広い目と耳を持つことで、さらに教育の質が上がると思う。
- 一人ひとりの意識を変えて行く必要があるということが印象に残った。「当たり前」だと思って取り組んでいることも、立ち止まって、本当に必要な目的を確認していくことも必要だと思った。タイムマネジメントが苦手だと改めて思った。
- ボーナス・オーナスの仕組みはわかり易かった。働き方改革は様々な場面に活かされることを知った。
- 自分はボーナス期の働き方に固執しているような気がした。
- このままではイノベーションは生まれえない！！
- 子供に時間の使い方を教育する。多様性のある教育がイノベーションを刺激している。これからこのことを大事にしなければいけない。
- 以前、国のセミナーを受講したのでとくにありません。
- 課題を出しあえたことが良かった。

- 他学校の事例が多くあること。睡眠をしっかり取るための脳の休め方を知りたい。
- 多様性と生産性は相関する。人間の集中力についての裏付け。
- 今後、「働く」ということのことを深める良い機会にしたいと思う。
- 6時間の睡眠時間では仕事ははかどらない。考え方を換えれば何かが変わっていくのか？
- 各学校での取り組み。原因と現象の違いの明確化。
- 人口オーナス期、飛び移らないと沈んでしまうのなら、飛び移るしかないのかと思った。
- 教育に人生を捧げていると思っているが、学習指導要領が軍隊を作っていると言われ、私たちは何のために働いているのか、ストレスになった。長い意味で見ると変わるのかもしれないが、難しそうだ。
- 小さなことからでも継続していけば、長い目で見ると変えて行けるのだろうなと思った。
- 働き方改革の必要性がわかった。なぜ少子化対策が遅れたり、不十分だったのか、もっと検証したり、改善策を事項したりしないのか、政府に訴えたい。

以上